

環境フォーラム湖東 活動報告

第9回えこサロン

今回はえこサロンにピッタリの会場を提供頂きました。「SLOW」です。会員の皆さんを始め環境に感心のある人これから活動始めようと思われる人こんなことはと要望のある人達大勢の方々が集って頂きました。

講師は、滋賀県立大学環境科学部非常勤講師の佐々木先生です。題目は「川の景観づくりを追い求めて～私の原点」と云うことでした。先生は東京から滋賀県立大学で環境学を研究されびわ湖を始め周りの河川等観察数多くの体験を提示資料にまとめ皆さんにわかりやすく質問も出しやすい様にと心くばりをしながらわかりやすくお話し頂きました。今回は、お店の方からも差し入れの「たなぼた」会議となり楽しく来年度に向けての活動にも希望が見い出せたのではなかったかと思いました。



湖東地域環境シンポジウム講演記録

「滋賀県の外来植物について」

滋賀県外来種問題検討委員会委員
村長 昭義 さん

湖東地方に特徴的なのは、畦畔木として植栽されたニワウルシです。これにはシンジュという別名も付いています。もともとは戦時中にシンジュサンという蚕を飼うことが奨励されまして、湖東地方一帯でシンジュサンが飼われていたことがあります。そのシンジュサンという蚕はシンジュという木、つまりニワウルシを食べるので、田んぼの畔にたくさん、この木が植えられました。今でも、甲良町や愛荘町の圃場整備されていないところに一部残っています。

このニワウルシは、成長量が大きく、他の木よりもずいぶん早く成長するため、他の木を追い抜かして結果的に排除してしまう少し困った木です。葉はウルシのような形をしています。実が風で飛ばされ、あちこちに増えていき、最近では犬上川や愛知川沿いにも多く見られるようになりました。滋賀県内では、他の場所でも見られますが、特に彦根を始めとした湖東地方で多く見られるように思います。

外来種は、一時的にワーツと広がり、消えていく場合もあります。一時帰化などと言われますが、だいたい1割ぐらいは定着し、9割については、だんだん消えていってしまいます。残った1割のうち、その半分ぐらいが分布を拡大していくと言われています。なぜ外来種は強いのかという点ですが、一つ目は繁殖力が在来種より大きいことです。セイカアワダチソウのように種子が風に運ばれて広がっていくものは、種子の散布能力が在来種より大きいのです。それから、シナダレスズメガヤは、1株に2万粒ほどの種子ができると言われていて、種子の生産量が非常に高いのです。あるいは、種子ができるまでの期間が短いものもあります。例えば、ホソアオゲイトウですと、ひと夏に2回種子ができます。夏の間に、花が咲いて実ができることを2回繰り返すわけです。あるいはホナガイヌビユは、ひと夏で3回も花が咲いて実ができることを繰り返すことで、たくさんの種子を作ることができます。

普通、植物は雄しべと雌しべがあり、雄しべの花粉が雌しべの柱頭に付くことで、受粉し種子を作りますが、帰化植物の中には、セイヨウタンポポのように「単為生殖」と言い、受粉しなくても種子ができるものがあります。だから、花がつぼみのうちに花を切り取っても、種子ができてしまいます。ヒメジョオンもそのような単為生殖をすることが知られています。

それから、「無性生殖」と言い、植物体の一部分が流されたりした時に、そこから根を出

淡海の川づくりフォーラム参加

第5回「淡海の川づくりフォーラム」に参加しました

1月28日(土)大津市で開催された「淡海の川づくりフォーラム」に環境フォーラム湖東として初めて参加し、生き物調査などこれまでの取り組みを発表しました。この行事は、「川や水辺と共生する暮らし」、「川や水辺と私たちのいい関係」について、活動を実践している団体が発表する公開選考方式のワークショップです。

選考会では、湖東地域の活動団体だけでなく、地域住民や子どもたち、企業も含めた幅広いネットワークで多彩な活動を継続している点を評価いただきました。



して増えていくという繁殖の仕方をするものがあります。例えば、ナガエツルノゲイトウです。ナガエツルノゲイトウは、彦根市の神上沼で大発生して問題になりましたが、これは葎のところからも根を出しますので、茎だけあれば増えていくというものです。これが琵琶湖に流れ出ていくと、大変なことになるということで、神上沼のナガエツルノゲイトウにつきましては、彦根市さんに重機を出していただいたほか、ボランティアの方に手伝ってもらいながら、ずいぶん除去されましたけれど、まだ十分とは言えません。今でも神上沼のそばを通ると、遠目では「神上沼の水面が見えて、きれいになった。」と思いますけれど、近寄ってみると、やはり茎がまだ生きていて、ちよこちよこ芽を出しているという状況です。他には、にわかには琵琶湖に入ってきたものとしてミズヒマワリがあります。これも、ナガエツルノゲイトウと同じように、茎が切れて増えていくというやっかいものです。

それから陸上性の植物としては、ワルナスビがあります。ワルナスビは、非常にやっかいなもので、これが生えた畑を、耕作するために耕運機でダートとかき混ぜると、根っこが切れます。この切れた根っこから、また発芽するので、耕運機をかけた方がいいと言われています。このようなやっかいなものが出てきており、駆除をどのように行っていくのか、これが外来種について一番根本的な問題と考えています。



環境フォーラム湖東では新規会員を募集しています

すでに環境に関する活動をされている方や、ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、企業・市民団体のみなさんまで、どなたでも参加していただけます。まずはお気軽に、左記事務局までご連絡ください。環境フォーラム湖東に関する詳しい情報をご連絡いたします。

環境フォーラム湖東情報交流誌



エコトピア

第19号

外来植物調査の結果報告

今回のいきもの調査は、これまで続けてきた個々の生き物とは別に、その物を俯瞰的に見た、特定外来種に的を当てた。滋賀県では平成19年3月に「ふるさと滋賀の野生動物植物との共生」に関する条例が全面施行された。これは守ってほしい3つのルールとして、特定希少野生動物植物の保護と特定外来種による生態系への被害防止で採らない・放さない・与えないのテーマの元、罰則も設けられたものであります。

私達はこの中から比較的参加し易い、又報告後の分布一覧のマップ作成に容易なものとして県内で要注意特定外来植物「オオキンケイギク」と外来種で在来種との違いが判断し易い「セイヨウタンポポ」の二種に絞った。

報告結果をマップ上に表示したものから見えてくるもの

①オオキンケイギク

元々、公共工事の河川、道路などの法面工事の仕上げ緑化に使用された経緯から特定地域周辺に集中した報告が見られる。今の処、山間部までの侵入は少ない。市街地まで点々と見られるのは花がコスモスに似て園芸用に持ち帰られた株が観賞用として育てられていることから注意が必要。駆除対策が試みられているが今のところ適切な方法が決定できないまま、在来種の背丈の高い植物により繁殖を抑えられていく自然の摂理が有効だとも聞く。しかし観賞用に植えられ拡散していくことは広く告知していくべき問題だと思える。

②セイヨウタンポポ

報告を頂いた全ての箇所にて点在し、市街地、山間部を問わず広がっている。調査中、在来タンポポの確認も相当数聞かれたが、今回の調査では記録されずいささか残念な面もある。在来タンポポと呼ばれるものは鳥居本、多賀、宇曾川ダム上流、愛東方面の山裾にまだまだ見られるが存在が薄くなりつつある。

外来植物調査二種類、205ポイントマップ上に記録できたが一部犬上郡内の地点表

湖東地域環境シンポジウム開催

平成23年11月19日(土)、ピバシティ彦根において「湖東地域環境シンポジウム」を開催しました。



湖東の生き物の仲間



フクジュソウ(キンポウゲ科)

早春の代表的な花で、花色が少ない時期、黄金色の目立った色は遠くからでも見立つ。冬の弱い光を一杯取り入れようと太陽の方に向かってパラポナアンテナのように花びらを丸く囲って開く。花びらの中の温度は外気より暖かくいち早く交媒源の虫たちを呼び込むことができるのである。写真は多賀町芦川上流。



ホソミオツネトンボ(アオイトトンボ科)

成虫で越冬するトンボ(越冬トンボ)がこの湖東に生息しています。水田近くの林の入り口付近斜面で越冬しています。雪の止んだ日、体のすぐ下まである積雪にも負わず、射してくる薄日にも少し体を動かす。成虫の出現期は、夏から翌年の初夏までの、ほぼ1年間成虫で過ごしている。



示の少ないのは参加報告が得られなかった箇所であり、未調査域となり全面表示には少し不足の結果となりました。今回の調査でも判るよう特定外来種(動植物)の条例が施行されても今現在、異様に感じるものについては多くの知恵や行動が注がれるかすでに蔓延化したもの(セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、フランスギクなど)には関心が無くなりつつあることに注意したい。私達が住む身の回りがいつしか日本の原風景を遙かに壊し欧米化していても誰も気にしないのだろうかと考える調査であった。



第3回湖東の水環境調査

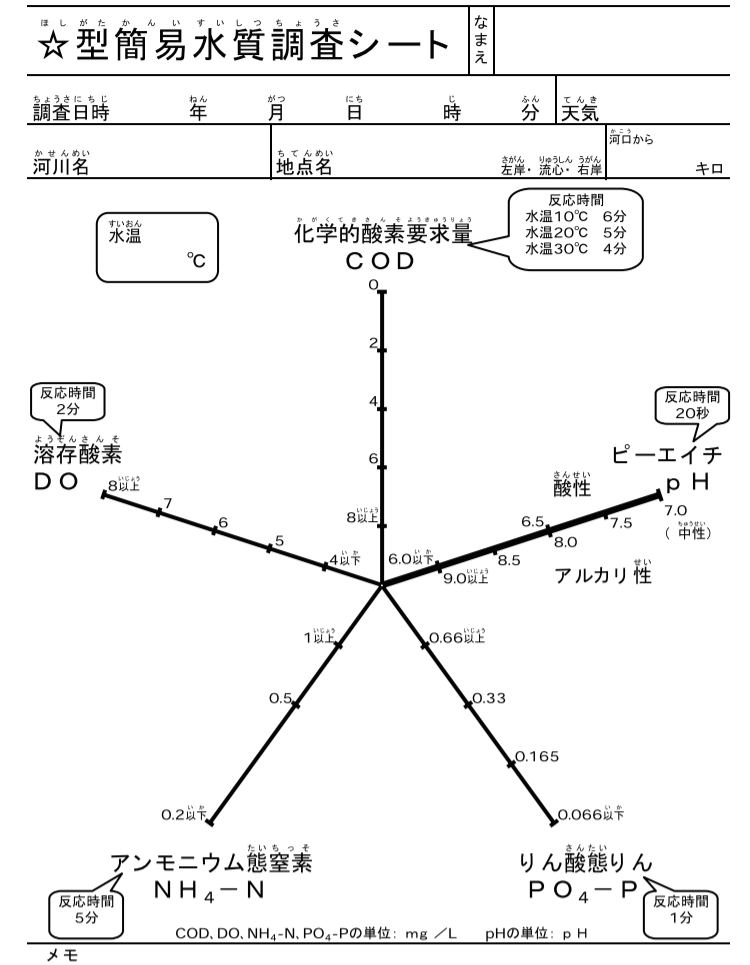
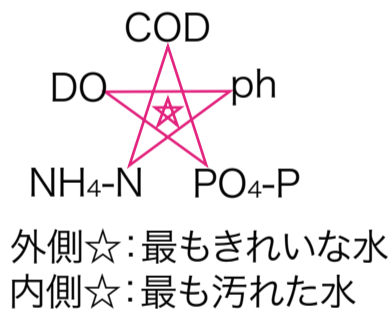
環境フォーラム湖東では「身近な水環境の全国一斉調査」に参加していますが、それにあわせて特定の地点を定め「湖東の水環境調査」を実施しています。

調査項目としては「身近な水環境の全国一斉調査」で気温、水温、CODバックテストを実施し、「湖東の水環境調査」ではそれに加えてPH、バックテストによるりん酸態りん、アンモニウム態窒素、溶存酸素を測定しています。そしてその結果を国土交通省近畿技術事務所で考案の「☆型簡易水質調査シート」を用いて評価しています。このシートは調査結果が☆型に示され、大きい☆ならきれいな水で、小さい☆やいびつな形の☆なら汚れた水であることが分かるというものです。

基準日 2011年6月5日(日)

調査地点
 「身近な水環境の全国一斉調査」 188地点
 「湖東の水環境調査」 24地点

- 宇曾川
 CODは上流では低いものの肥田町では高くなり、河口ではさらに高くなっています。CODについて他の測定結果からも宇曾川以南の河川水路では高いことが分かっています。なおNH4、PO4は低レベルにあります。
- 犬上川
 いずれの数値も良好な状態が保たれています。
- 平田川
 中流域でNH4の高い水の流れ込みがありますが、うすめられて下流に至ります。この川は見かけは悪く思われますが、水質の数値は良好です。
- 芹川
 上流のきれいな水がそのまま下流に流れ下っています。
- 猿ヶ瀬川・港湾
 彦根市街地の中心部や外町から地蔵町にかけての下水道未施工区域の排水が流れ込んでいて汚れた川といえます。下流域で浄化センターの処理水を受け入れているため窒素やりんは少ないもののCOD値を高めています。また水温が高くブルーギルなどの集まりやすい場所になっています。
- 矢倉川
 本流の上流ではうつくしく COD、NH4のやや高い小野川が流れ込み、河口においてCODが高レベルでNH4、PO4は低レベルの状態にあります。
- 柳川漁港・宇曾川漁港
 CODはびわ湖にくらべやや高い状態にあります。
- 内湖
 流入河川の多い野田沼は良好な状態にあります。それにくらべ曾根沼、神上沼はCODが高く、NH4、PO4がやや高い状態にあります。神上沼において外来植物のナガエツノゲイトウが岸辺で散見されました。
- 御池岳山上の池(元池)
 人為的に影響のあるNH4、PO4のレベルは低く、CODは高い状態にあります。PHはほとんどの所が7近辺であるのに6でした。溶存酸素も他にくらべ低い数値でした。池にイモリが生息していて、周辺の木にモリアオガエルの卵が沢山見られました。



▲☆型簡易水質調査シート(改訂版)
 環境フォーラム湖東・近畿技術事務所協働で改訂

▼第3回湖東の水環境調査 調査結果

